

①見守り情報共有タイプ

三島市「FairCast®-子ども安全連絡網」(市独自事業)

導入例

三島市の人口は約11万人、人口密度は約2千人/km2です。戦後多くの学校が開校したため、文教都市としての特色を帯び、昭和44年に東海道新幹線三島駅が開業し、文字通り伊豆の玄関口となりました。首都の通勤圏ということもあり、在住期間の長い家庭と首都圏で働く家庭が混在しております。

児童を巻き込む犯罪が増加する中、これまで学校からの緊急連絡は、時間がかかる学級の連絡網を利用するか、学校の少ない電話を利用し、各教員が保護者1人ずつに電話をかけるか、教員自身の携帯電話で連絡をするしか方法がありませんでした。そこで、一斉に短時間で正確な連絡が可能な①見守り情報共有タイプである「FairCast-子ども安全連絡網」の導入が図られました。

実施体制

実施主体: 三島市教育委員会・市内全小中学校
見守り対象者: 三島市内全小中学生(約1万名)
利用者・協力者: 保護者、町内会、地域ボランティア、教職員

実現機能

■連絡・情報提供機能:

- ▶多メディアに対する一斉連絡と送達確認
パソコンや携帯電話から、保護者が事前に登録したメール、FAX、固定電話・携帯電話への一斉連絡※及び連絡を受けたことを確認する機能。※固定電話・携帯電話へは音声に自動変換し掛電
- ▶2種類の連絡形態
通常連絡: 設定された1つのメディアへの連絡。
追掛連絡: 緊急時に受信が確認できない場合、登録されている他のメディアに順次連絡。
- ▶個人情報の秘匿とシームレスな連絡先管理
連絡者は個人情報に触れることなく、また連絡先グループを自由に組替えて情報を配信することが可能。

主な導入設備

- ▶ASPサービスを利用するため、特段の初期設備の導入は一切不要。

考慮した地域特性

- ▶共働き家庭が多く、日中児童の自宅への連絡がとりにくい状況があった。

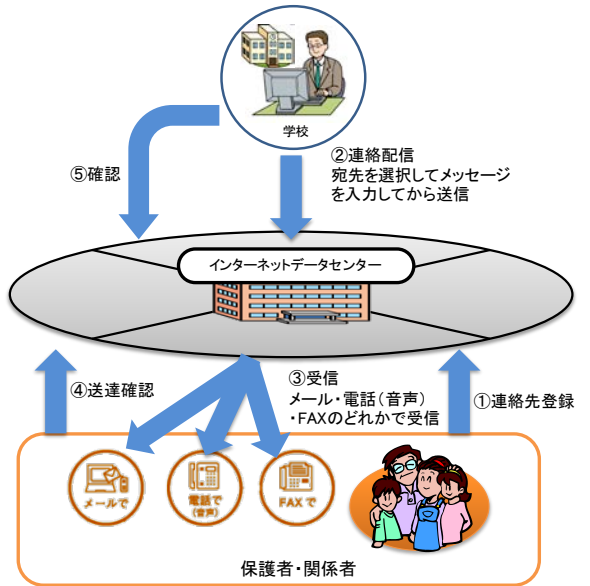
事業への評価

- ▶平成19年度より、市内21校の全小中学校で導入。各校の登録率は、ほぼ100%に達している。
- ▶教育委員会:「連絡先を管理しなくても済み、使いやすく確実性が高い情報格差の無い連絡網整備は、子どもの安全確保に有効」
- ▶学校長:「電話連絡網だと、時間がかかる上、不在家庭には連絡がつかなかったので、大変助かっている。地域ボランティアへの見守り依頼にも活用」

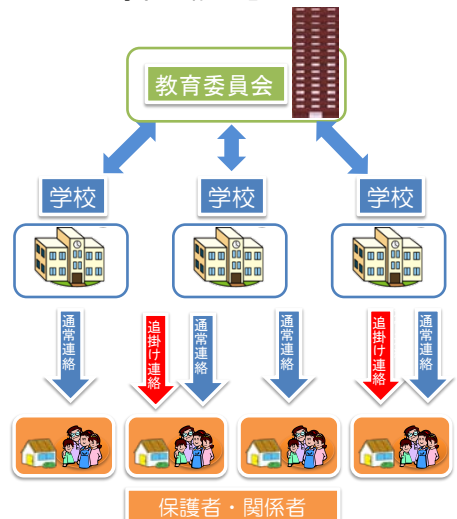
平成20年12月現在、継続運用中

システムのイメージ図

<多メディアへの一斉連絡と送達確認のイメージ>



<三島市連絡形態のイメージ>



※一部の学校では、受信の確認がとれるまで連絡を送れるように複数の媒体を登録しています。